

農地中間管理事業の推進に関する法律（平成 25 年法律第 101 号）第 26 条第 1 項に基づく農業者等の協議が行われたので、同項の規定により下記のとおり公表する。

令和 3 年 7 月 29 日

丹波市長 林 時彦

### 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名	作成年月日	直近の更新年月日
丹波市	氷上町福田	平成 29 年 6 月	令和 3 年 7 月

#### 1. 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	11.9 ha
②アンケート調査に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	— ha
③地区内における 75 歳以上の農業者の耕作面積の合計	— ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	— ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	— ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	2.4 ha
(備考) 農地中間管理機構の活用は現在のところ具体的には考えていない。	アンケート回答割合 (②/①)
	実質化済のため不要 %

#### 2. 対象地区の課題

地域の担い手が高齢化し、後継ぎも新たに出来ることもなく推移している。  
おいやか村の活動も停止し、中心経営体の 1 人が亡くなり、栗園、田畑も休止している状況である。

#### 3. 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

今後も栗と高杉氏（山南町）の若松・菊栽培に農地を集約していく。

注：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標となる所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	中心経営体	6 経営体
----	-------	-------

#### 4. 3 の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

平坦な山林を含めた農地を、過去から展開している福田観光栗園を益々充実拡大していく。  
全国的にも有名な山南町の若松を拡大していく。  
活動休止している集落営農組織である“おいやか村”を、地域の担い手として復活させる。